

# 遠泳を体験した大学生の達成動機の変容

小口咲希 (生涯スポーツ学科 野外スポーツコース)

指導教員 林 綾子

キーワード：遠泳，達成動機，有能感

## 1. 序論

遠泳は自然の中で、自己の気力体力の限界に挑戦すること、また集団の偉大さを知るという教育的な意義がある(三宅, 2005)。遠泳時には不安や苦しさがある中でも泳ぎ切るための強い気持ちが必要となる。そこで、筆者は達成動機に着目した。達成動機とは、達成欲求と失敗恐怖の2つの側面を持ち、成功を収めることへの願望を表す「達成欲求」と失敗を避けることへの願望を表す「失敗恐怖」が位置付けられている(光浪, 2010)。これらには個人の持つ有能感との関連が指摘されており、遠泳においても同様であると考えられる。本研究では遠泳前後における達成動機の変容と、有能感との関連について明らかにすることを目的とする。

## 2. 研究方法

【調査対象】2017年度9月に行われたB大学水辺実習の遠泳受講者379人から、不備を除いた、290人分のデータを分析に用いた(有効回答率87%)。

【調査時期】遠泳前後の2回(以降、実習前をPre、実習後をPostとする)

【アンケート内容】光浪(2010)の達成動機尺度2因子9項目(達成欲求・失敗恐怖)と有能感、不安感、受容感、専心性についての項目を加え、事前では21項目、事後では記述を追加し23項目を使用した。

## 3. 結果と考察

### 1) 遠泳前後での達成動機や他の要因の変容

遠泳前後の2回のデータの平均値の差を検討するために対応のあるt検定を行った。その結果、受容感以外はPre-Post間に有意な変化が見られた(表1)。達成欲求、失敗恐怖、有能感が向上し、不安感が低下した。遠泳という課題への遂行が影響したと考えられる。

表1. 遠泳前後での各要因の平均値と標準偏差、t検定の結果

|      | Pre<br>M(SD) | Post<br>M(SD) | t値         |
|------|--------------|---------------|------------|
| 達成欲求 | 13.44(2.13)  | 13.95(2.29)   | -1.95 ***  |
| 失敗恐怖 | 10.86(1.95)  | 11.13(2.02)   | -1.41 **   |
| 有能感  | 9.04(3.74)   | 10.90(2.92)   | -6.17 ***  |
| 不安感  | 8.98(3.48)   | 7.83(3.51)    | 2.81 **    |
| 受容感  | 11.80(2.26)  | 12.25(2.44)   | -1.52 n.s. |

n=290 \*\*\* $p < .001$  \*\* $p < .01$

### 2) 達成動機の泳力級別変容

時期と泳力級を要因とする2要因分散分析を行ったところ、交互作用に有意な差がみられた(達成動機： $F(1, 286) = 17.884, p < .001$ 失敗

恐怖： $F(1, 286) = 8.03, p < .01$ )ため、級別での検定を行った。その結果、達成欲求、失敗恐怖共に、泳力級が最も低い泳力級Dのみ有意に向上したことが明らかとなった。その要因として、泳ぐことに対して恐怖心が大きく、達成への不安も大きかった泳力級Dの学生が、補講や練習を重ね上達し、本遠泳の場で完泳への達成欲求が向上したと考えられる。また、失敗恐怖については、練習を積み重ねていても、泳力に関する不安や琵琶湖の状況などから、恐怖心を払拭することができず、より失敗への恐怖も高まったと考えられる。

### 3) 達成動機の男女別変容

時期と性別の2要因分散分析を行った結果、達成欲求には男女による違いはなく、両群とも有意に向上していた。失敗恐怖には女子のみPre-Post間に有意な向上が見られた。このことから、女子の方が精神面、体力面で不安や恐怖が大きかったと考えられる。

### 4) 達成動機の変容と有能感の関係

達成欲求と失敗恐怖には関係があると考え、達成動機について、相関分析を行った。その結果、どちらも正の相関関係が見られ、Pre、Post共に達成欲求が高い人は失敗欲求も高いことが明らかになった。

有能感を事前の高中低位群に分け、時期との2要因分散分析を行った結果、交互作用に有意な差が見られた( $F(1, 286) = 19.02, p < .001$ )。達成欲求については、低中位群では有意な向上が見られ、高位群では有意な低下が見られた。失敗恐怖はすべての群で有意に向上しており、有能感の程度による差はなかった。有能感の低い学生は、泳力的に自信がないながらも完泳するために強い気持ちで取り組んだことが有能感の向上に繋がったと考えられる。失敗恐怖は有能感の程度に関わらず向上していた。

### 4まとめ

達成動機の変容は、有能感、泳力、性別が大きく関係していることが明らかになった。

今後、具体的な影響について明らかにする必要があるとともに、泳力や不安などの個人差についての指導・運営方法を検討する必要がある。

## 引用文献

- 1) 光浪睦美(2010) 達成動機と目標志向性が学習行動に及ぼす影響認知的方略の違いに着目して. 教育心理学研究, 58:348-360.
- 2) 三宅信花(2005) 遠泳での泳力と有能感、不安感の関連—体育専攻学生の場合—. 日本体育大学紀要, 35(1):65-69.